

令和 6 年度 地域を志向した研究 成果報告書

テーマ		地域防災に貢献できる医療系人材の育成			
研 究 組 織	代表者	所属・職	薬学部 教授	氏 名	賀川 義之
	連 携 研 究 者	所 属 ・ 職	氏 名	所 属 ・ 職	氏 名
		薬学部・教授	森本 達也	薬学部・助教	浜辺 俊秀
		薬学部・教授	伊藤 邦彦	岐阜薬科大学教授	林 秀樹
		薬学部・教授	内田 信也	静岡県薬剤師会・会長	岡田 国一
		薬学部・講師	刀坂 泰史	静岡県薬剤師会・専務理事	杉井 邦好
		薬学部・講師	辻 大樹	静岡県薬剤師会・常務理事	小西 尚樹
		薬学部・講師	柏倉 康治	あらし薬局	今野 織江
		薬学部・講師	砂川 陽一	ひまわり薬局松崎店	高橋 春之介
研究の目的、 内容、方法、 研究成果、 今後の課題等	<p>医薬品供給車両（モバイルフーマシー：MP）とは 薬局機能を搭載した機動力のある車両である。ライフラインが途絶えた場所でも自立的に調剤作業と医薬品の交付が可能である。在宅医療の研修車として薬学生の教育や薬剤師の資質向上や大規模災害が起きた際の被災地の復興支援への貢献することが可能である。静岡県立大学では、平成 30 年 3 月に MP が静岡県立大学と静岡県薬剤師会との間で締結された包括協定の一環として設置された。教育や災害時の時に用いるだけでなく、健康支援や地域包括ケアなど様々場面でのこの車両が期待されている。2024 年 1 月の能登半島地震では静岡を含めた多くの MP が現地に赴き、災害支援活動を行った。</p> <p>能登半島地震では道路が寸断され、多数の孤立集落が発生し、災害支援の難しさを再認識させた。静岡県の伊豆半島は能登半島と地理的条件が似ており、南海トラフ沿いで想定されている大規模地震が発生した場合、陸の孤島となる恐れがある。静岡県薬剤師会との協議した結果、今年度は薬学部大学生及び MP を伊豆半島に派遣し、現地の住民、薬局や役場との交流、MP の活動および災害の備えについての紹介など、下記の概要にて行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MP の展示、内部、外部設備の見学 ・災害への備えについて紹介 <p>例：ローリングストック、おくすり手帳、生活用水、防災リュックの中身</p> <p>現地では、能登半島地震の際に MP とともに災害支援活動を行った松崎町の高橋春之介先生(元 DMAT ロジスティクス担当)とお会いし、現地での活動の詳細や問題点などを貴重な体験をお話して頂いた。今回、MP 車両を現地に動員したことにより、MP の活動について知って頂く良い機会となった。地道な活動ではあるが、今後、このようなイベントを継続して実施していくことで、県民への災害への備えや防災意識の向上の啓発に繋がっていくことが期待される。</p>				

※別途研究成果資料を添付する。

令和 7 年 2 月 14 日提出

別途報告書

伊豆半島が陸の孤島となる可能性を考慮して、伊豆半島へは国道 223 号線（フェリー）を使用



あらり薬局・松崎町役場でのモバイルファーマシーの展示

